

研究発表 I

学校名 神奈川県立綾瀬高等学校 P T A

発表テーマ 『コロナ禍での P T A 活動』



1. 学校紹介

神奈川県立綾瀬高等学校

昭和52年4月創立の全日制普通科高校です。創立46年目を迎え、これまでに15,000名を超える卒業生を送り出してきました。今年度は46期生327名が入学し、現在、全校979名の生徒が在籍、各学年8クラス規模の生徒を36名の9クラス編成で展開しています。

綾瀬高校は、生きる力となる「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の3つの力を育成していくことを目標に、生徒一人ひとりを大切に、共に生きる社会の実現を目指す学校づくりを進めています。令和元年度からは「インクルーシブ教育実践推進校」となり、障害のあるなしに関わらず、すべての生徒が自己理解を深め、目標を見つけ自己実現できるような教育実践に取り組みながら、地域の方々と関わり、生徒が社会の一員として考え、判断し、行動できるようにキャリア教育の充実にも取り組んでいます。

生徒たちは、この2年間はコロナ禍で制約が多い中でも、落ち着いた環境の中で、気持ちの良い挨拶をし合い、互いを思いやる気持ちを持って、学習に、部活動に、その他さまざまな活動に、毎日生き生きと充実した高校生活を送っています。そして、生徒一人ひとりが自らの目指す進路実現に向けて頑張っています。

校章

綾瀬の地名が、一つには「瀬が綾をなす」ことから名づけられたという由来から、「あや」と「せ」を図案化し、知・徳・体のせせらぎが調和しながら発達する意味を象徴したものです。



綾瀬高校イメージキャラクター 『アヤセミ』

綾瀬市の市の鳥「カワセミ」になぞらえて、平成23年に本校教職員の発案によって誕生しました。学校案内などのさまざまな印刷物に登場して「癒し」「親しみやすさ」を与えています。また、学校の事務室窓口横に置かれたマスコットは学校説明会の会場にも出かけて行きます。



2. PTA活動紹介

綾瀬高校PTAは、本部、成人委員会、広報委員会、一学年委員会、二学年委員会、三学年委員会で構成され、綾瀬高校のため、生徒のために活動しています。

- ・本部…主に学校との連絡調整役として活動しています。予算案に関してはコロナ禍においては例年通りにはならないことも多く、また、PTA主催の行事などの実施、もしくは中止の決断の際には難しさを感じながら情報交換や意見交換をしています。
- ・成人委員会…主な活動として社会見学や観劇会を企画・実施しています。
- ・広報委員会…主な活動として、広報誌「綾友」の作成発行をしています。「綾友」の編集発行に向け、体育祭、文化祭などの行事の撮影、取材を行い、編集活動をしています。
- ・学年委員会…年度の初めに各学年の先生方と保護者の顔合わせの場を企画し、先生方の人柄に触れる貴重な機会を設定しています。また、一学年委員会は親子で楽しむ芸術鑑賞会、二学年委員会は保護者向け大学見学ツアー、三学年委員会は本校の文化祭「彩綾祭」でのPTAブースの企画などを実施してきました。

3. コロナ禍で制約のあるPTA活動

入学式や卒業式などに出席できず、PTA会長の挨拶の機会はほとんどなくなりました。例年体育祭では給水テントを設置し、冷えた麦茶を提供していましたが、ペットボトルの差し入れに変更しました。また、コロナ禍前には夏休みに環境改善事業として、校舎内のペンキ塗りを実施していましたが、今年度は2年間の休止を経てようやく復活と思っていた矢先、感染者数の再拡大という状況に延期を余儀なくされています。各学年委員会の主な活動である先生方との顔合わせ、芸術鑑

賞会、大学見学ツアーも中止を継続せざるを得ない状況です。

交通安全対策として、学期の始まりと終わりに風紀委員の生徒を中心に、地元自治会の方たちとPTAも参加して、小・中学生の登校の安全を見守り、通学する生徒の指導を行うふれあい交通安全指導を行っていました。コロナ禍では中止せざるを得ない状況が続いていましたが、地域の方からも高い評価をいただいている取り組みですので、感染状況に注意を払いながら再開する予定であります。そして、先日、実施することができました。

彩綾祭（文化祭）ではマドレーヌ販売（校章入り）を実施しており、販売数を300、600、800個と増やし、コロナ前は1000個を完売しましたが、2年間は彩綾祭（文化祭）に参加できず、今年度は規模を縮小しての再開予定です。そして、こちらも入場者を限定し、一般公開で行うことができました。



成人委員会では、中止した社会見学の代わりにの企画として、コロナ禍でも実施できるハーバリウム講習会を企画し実施予定です。

4. まとめ

コロナ禍の2年間、どの活動においてもかなりの制約があったために経験値が少なく、わからないことも多い中、PTA役員の中には上の子のときにも役員だったという頼りになる存在も多く、お互いに協力し合い充実したPTA活動となるように今後も試行錯誤を続けていきたいと思えます。できることをできる範囲で、手探りですが、活動を模索していきます。